

黒雲と見へし者、大地をうごかし、

屋敷・かこひ（囲い）森、其外何百数事立候

老木迄押くちき（挫き）、砂音つなみ、土を

はき立煙を立、震動雷、誠ニおそろ

しき、第二の泥火石数百丈も高く

打上、青龍くれなへ（紅）のしたをまき、両眼

日月のことし

一時に闇の夜にして火石光り、いかすち（雷）

百万乃響、天地茂つきぬく計り、田畑

高面之場所、不レ残只一面ニ泥の海のことし、

何れの畑境か是を不レ知、老若男女泥

死未（いまだ）死へき時も来らざらんと思ひ、